

～「満5年になりました」～

エコチル調査福島ユニットセンター
センター長 橋本浩一

東日本大震災の直前に開始されたエコチル調査は平成28年1月で満5年となりました。この5年の間には様々なことがありましたが、着実に子どもたちは成長し、最初の年に生まれたエコチルキッズは夏頃には5歳となります。

エコチル調査は全国では目標の10万人を達成し、福島県では様々な思いの中で13,134人の妊婦さんにご協力をいただきました。この参加人数は福島県内の対象となる妊婦さんの「お二人に一人」にご協力をいただいていることを意味し、全国15ユニットの中で最も多く、半年ごとの質問票の返却率は3歳時点でも約90%を維持し、常に上位グループで推移しています。福島の参加者の皆さまの熱心なご協力への感謝とともに、本調査へ寄せられている大きな期待と責任を感じています。

10万人のリクルートが終了し、エコチル調査は子ども達が13歳に達するまでの長期のフォローアップの新たなステージ歩みだしています。また全体の5%の方(福島では約650人)に無作為にご協力をお願いする詳細調査も順調に実施されています。詳細調査での自宅訪問での環境調査(環境暴露評価)、医療機関等での医学的検査、精神神経発達検査では、ご家族の皆様、医療機関の皆様には大変お世話になっています。ありがとうございます。

「子育て状況が少し見えてきました」

全国でも高水準である、参加者の約9割もの方からご回答いただいている全体調査の質問票の集計結果から、母親の喫煙や飲酒の状況、子どもと過ごす時間(PC・情報端末の使用時間等)、パートナーの育児への協力度などについて全国と福島のデータ比較もできるようになってきました。当ユニットセンターのニュースレターやホームページ「みんなの図書室」でもご覧いただけます。

「全世界が注目」

環境省がエコチル調査を実施するきっかけとなったのは、1997年に米国マイアミで開催されたG8環境大臣会合において「子どもの健康と環境」に関する宣言(マイアミ宣言)が出されたことによります。その後、世界でこの問題の重要性が再認識され、日本、デンマーク、フィンランドが国家プロジェクトとして子どもの健康に関する疫学研究に取り組んでいます。

「震災後10年、20年と経過してゆく中で」

福島のご家族の一人おひとり、そして関係者の皆さまのご理解とご協力が世界的な国家プロジェクトであるエコチル調査を支えています。今後、震災後10年、20年と経過してゆく中で、必ず、「福島あの頃の子育てはどうだったのだろうか?」、「環境の影響はどうだったのだろうか?」と振り返り、問われるときが来ます。

福島県におけるエコチル調査はその問いへの準備という社会的責任があります。エコチル調査福島ユニットセンターは参加者の皆さまの様々な思いに寄り添い、関係者の皆さまと立ち止まることなく、一緒に子どもたちの成長を見守り、歩み続けてゆきます。そして、1人でも多くの皆さまが、子どもが13歳になるまで継続して参加いただくことが、未来への大きなプレゼントに繋がります。

平成28年1月